

完成見学会のご案内

環境の世紀21世紀にふさわしい木組みの住まいづくりを進めてまいりました「古きものを愛しむ住まい」が完成しました。お施主様のご厚意により、完成見学会を開催させていただきます。

11月3日(金)・4日(土)・5日(日)

午前10時～午後5時

お問合せ <http://yumekikou-happy.com/>

古民家再生 佐賀

検索

又は

古民家移築再生

検索



自然素材でつくった家で暮らす

「古きものを愛しむ住まい 完成見学会」



Before

この家は施主のお父さんが借家として残したもので、ここ数年は空き家となっていました。もともと古いものが好きだった施主は、帰郷した折り、ここを改修しておもしろいかも? と思いついたそうです。要望として、「可能な限り既存のものを使う」「新建材(合板やビニールクロス等)は使わない」「外壁は土壁、窓枠は木製」など挙げられました。改修前はトタン貼だった外壁は、土壁下地にしっくい塗と板壁にし、内装も自然素材で仕上げています。アルミサッシだった窓も、建築当初に使われていた木製の窓に戻しました。天井の低さや古色の色合い、古道具の風合いやデザインが、なんともノスタルジックな雰囲気をかもしだしています。新建材では得られない、年月を経た古きものの味わいを感じられる家。ちょっとのぞきに来てみませんか?



After

木組みをあらわした数少ない古民家再生の見学会です。

- 古材にかこまれた住まいを実感されたい方。
- 既製品ではなく無垢材と漆喰をふんだんに使った住まいをご希望の方。
- 手づくり家具、手づくりキッチンを見てみたい方。
- 古い家をお持ちで、新築にするか、新たに再生するかお悩み中の方。
- 古い家を持っていないけれども、興味をお持ちの方。
- 家の中が暗い、寒い、ちょっとした段差にお悩み方。
- すべて新しいものではなく、古い建具も利用して家の中で使いたい方。
- 四季を感じながら心地よい暮らしをしたいと思っている方。

あの時、あのチラシの見学会を見ておけば良かったと、後悔する前に(実際、そのような方がいらっやあって、残念がっていましたから...)

この機会を是非お見逃しなく!!

新築・リフォーム・解体工事もお気軽にご相談下さい!

私たち夢木香は、主に古民家の再生を手がけて来ていますが、古材の梁を使った新築や、無垢材を使ったLDKのみの小さなリフォームも多くのご依頼やお問い合わせがあります。私たち夢木香は築100年を越える民家の再生を数多く手がけて培った経験と実績を活かし、これらのご要望に真摯にお答えしたいと思っております。古い家をお持ちで、なんとか残したいとお悩みの方も私たち夢木香にご気軽にご相談いただければ幸いです。

古民家に学ぶこと

夢木香の住まいづくり

夢木香は自然素材にこだわり施工します。素材は身近にあります。施工するためには職人の技術が必要です。木や竹や土や紙や葉を、大工、左官、瓦、建具、畳職人たちが力を合わせ仕上げられてゆきます。古民家の再生を手がけることにより、昔の職人たちと会話ができます。力強さと優美さを兼ねそなえた丸太の木組み、落ちついた風合いのいぶし瓦、漆喰の美しさなど、いたるところに昔の職人の心意気を感じられます。その技術を伝承し、次世代に伝えてゆくことが大切だと感じます。古民家の再生に学び、その技術と思想を、新築やリフォームにいかしてゆくことが、私たちのつとめだと考えます。

本当のエコ住宅とは

近年、エコ住宅をうたいもんく、高气密高断熱が盛んにならわれています。通気を遮断し、吸湿性のないビニールクロスの家が多く見受けられます。結露が発生しやすく、カビの原因をつくり、カビがダニを呼び、ダニの死骸がアレルギーを誘発します。それを避けるためには、エアコンや換気扇あるいは除湿機や加湿器や空気清浄機が必要です。つまり、設備機器を効率よく使うための工法です。設備機器がなかった時代につくられた古民家には、機械を使わない工夫があります。呼吸する自然素材がふんだんにつかわれ、梅雨や夏の暑さをしのぐ知恵があります。寒さに対して、適度な気密と断熱をとれば、暮らしやすい住まいになります。本当のエコとは設備機器をできるだけ使わない住まいだと考えます。

ゆめ き こう
有限 夢木香
会社

心と体の健康を育む住まいづくり

<http://yumekikou-happy.com>

E-mail: yumekikou@globe.ocn.ne.jp

〒849-1315 佐賀県鹿島市大字三河内甲2847 ☎0120-835-832 TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334

人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる (沖縄の古民家 中村家住宅)

酒蔵など4棟を 環境に配慮した社屋、工場として再生



おかげさまで

「サガ電子工業(株) 新工場」

★第17回佐賀市景観賞 ★第10回木の建築賞 ★2013年佐賀の家賞
★2015年 第10回民家再生奨励賞 大賞 をいただくことができました。

人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

自然な環境の中で 仕事がしたい

サガ電子工業は今年で設立41年目を迎えた。1996年に会社を受け継いだ小柳社長は、当時の工場が住宅地にあったこと、建物や設備が古くなっていったため、何らかの建て替えや移転を考えたが、決断までにはいたらなかった。

小柳社長は42歳のときに(2008年)がながみつき、残りの人生はちょっとテンポをゆるめた生き方をしたいという考えが強くなったそうです。「今はストレス社会なので、ほっとする場所が必要。1日の3分の1は仕事ですが、エアコンでキンキンに冷えて寒い思いをしたり、カラカラに乾いた熱風のなかで仕事をするのではなく、なるべく自然な環境の仕事場ができないかと考えるようになりまして」。さらに「酒蔵に入れてもらったことがあります、ひんやりとしてすごく快適で、古い床板もすてきで、ここでアンテナの組み立てができたら幸せだろうなと思ったことがあります」と話してくれました。

そして2011年3月の東日本大震災と原発事故によって始まった「節電」に直面し、あらためてエネルギーの使い方を考えるようになったとのこと。2ヶ月後、たまたま知人に紹介されて民家を移築再生した店舗に入り「これだ!」と直感され、さっそくホームページで検索し、夢木香が目にとまる。一日で事務所を訪ね、こういうことがしたいんだと話されると、ちょうど再生を望んでいる蔵があった、すぐに見に行くことに。武雄市の築100年を超える2棟の酒蔵と、西有田町の築80年の米蔵と納屋を見て決意されました。「古さについては、とことん古かったので心配を通り越していました。できるできないの感覚はなかったですね」。その年の11月には契約、12月には蔵の解体工事が始まりました。

再利用と地産地消で 蔵を再生

●再利用可能なものはできる限り使う
移築再生にあたり、小柳社長は使える材料はできる限り再利用するという方針を決め、松尾(夢木香 代表)もそれに応じた。「捨てるものはほとんどありませんでした。壁の土もほとんど使いました。新しい土に古い土を混ぜたほうが

強度が出ます。使わなかったのは木材の悪くなったものくらい。それも冬場に暖をとるための燃料として使いました」。蔵の東石や1万枚の瓦も中庭や外構で役目を果たしている。瓦のほとんどは小柳社長みずから配置を考え運んだ。納屋の基礎石は新しく掘った井戸のまわりを囲む。このあたりは深さ120mくらいのところに地下水が流れていて、工場ではこれを水クーラーとして冷暖房に利用している。

●新しい材料と職人も地産地消す

酒蔵、米蔵、納屋を丁寧に解体して柱・梁をできる限り生かし、竹小舞に土壁、そして漆喰で仕上げ、瓦を葺いている。「時間がかかりましたが、これをしていない意味がないですから」と小柳社長。「この蔵で新たに使った木材はほとんど佐賀県産材の杉、製材もうちの工場でおこないました。地元佐賀の木工、左官、瓦職人や電気屋さんを含め延べ5000人が蔵の再生に携わっています。そういう意味でも地産地消なんです。エネルギーの計算はできませんが、環境にいい建物が増えてきたと思います」と松尾。地域の小学生を招いて土壁ワークショップも開催した。パートの人たちも竹小舞の作業や土壁づくりに参加した。

●省エネ・省資源を 実践し 蔵造りの景観を実現

●工業団地にランドマークが誕生
社屋と工場は2013年春に完成し、工業団地に新しい景観を創りだした。建物のまわりには薪ストーブ用の薪を積んでいるため、材木屋だと思ふ人や、ここで喫茶店をしたらいいなと夢を見る人もいるそう。さらに「蔵のもつ調湿・調温機能を最大限に生かして省エネ、省資源といった先駆的なエコ活動を実践しながら、時代を経た蔵を再生した美しい景観を創造した」として第17回佐賀市景観賞を受賞しました。

●電気エネルギーの使用を減らす

●前の工場のように大容量のエアコンを使っていたが今は使っていない。20cm厚もある土壁の調湿効果により、夏場の蒸し暑さを快適に抑え、水クーラーと天井扇でも涼しく過ごせる。事務所の窓に取り付けたエアコンは、猛暑の日中に数時間使うくらいで済んでいる。冬も一前の鉄骨の工場は、朝会社を開けたら10度くらいで、昼には24度、また夕方

にはぐっと冷え込むように大幅な室温の変化がありました。それに比べて土蔵は朝20℃だった夕方までずっと20℃です。小柳社長は土壁の調湿効果も実感している。パートの方にも話を聞いた。「前の工場は部屋を密封していたので、空気が淀んでいたように思います。ここは天井が高く広いのでとても楽になりました。夏のはじめも割と涼しく、冬は薪ストーブと水クーラーの風だけですが過ごしやすいですよ」とおっしゃってくださいました。

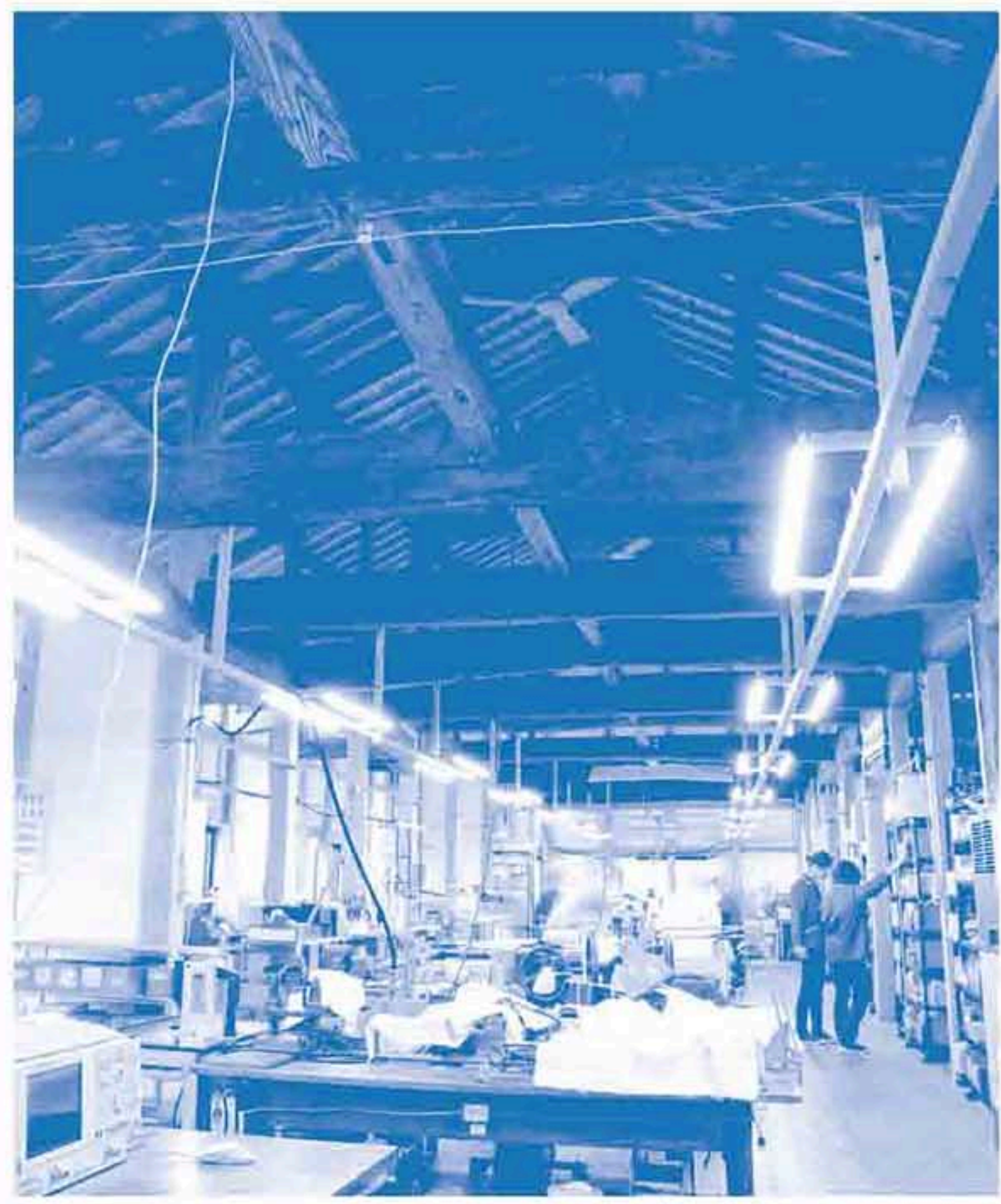
●松尾も「100年前の人びとがつくった建築を受け継ぎ、自然素材を利用する技術は、環境に負担をかけないものです。そういう建物を小柳社長とつくりあげることができました」

●建物が会社の取り組みを表す
去年の売上は小柳社長が社長になって過去最高となった。技術力はもちろんだと思いが蔵の効果もあるのだろうか。「蔵にした効果は想像以上にあると思います。お客さんが東京から見学に来てくださいます。皆さんここまでやるかと呆れて帰ります。しかし、また別のお客さん連れられてくるんですね。そうしたことから次につながることもあります。私たちが取り組む姿勢を見ていただくことが一番だと思います。また、2015年新卒の中には「蔵が好きなんです」と

次の世代に残すために

松尾は今回の再生をあらためて振り返る。「伝統的な日本の建築は、つくる時にほとんどが人力です。解体する時にもエネルギーはそれほどいらぬんです。今回はさらに、ほとんど廃棄物が出ませんでした。出たとしても土に還ります。しかし、省エネの機器は、つくる時にまじりエネルギーが必要です。住宅も省エネといいますが、ゼロにはなかなかできません。最終的に廃棄する時にエネルギーを使います。昔の人の知恵というのは素晴らしい。そして環境にもいい。これからも、このような建物を壊さずに残していきたい」。

最後に小柳社長に、再生を実現して約3年を経た今の思いを聞いた。「ものづくりの基礎にあるのは職人の技だと思えます。多くの人びとの手によってここができました。職人がいなくなってしまうたらこのような素晴らしい建物がつくれなくなってしまうと思います。ぜひとも次の世代に残していかなければ」。



人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる17 (沖縄の古民家 中村家住宅)